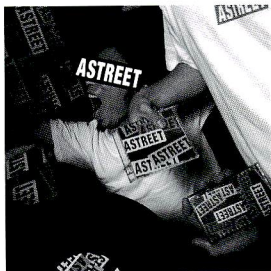


DJ A-1「鉄腕舞句」 「MIXTAPE ATTACK」

RELEASE

発売中



新・日本語ラップ戦国時代！ テッペン獲るのはどいつだ!?

DJ A-1のバイタリティには感服する。米サンフランシスコでDJのキャリアを積み、帰国してからのたった数年で一気に日本最強のヒップホップDJへと駆け上がっている男だ。

彼が仕掛ける日本語ラップ・オナーのミックスCDシリーズ「腕舞句」の三作目が早くもドロップされた。北は山形、南は鹿児島まで日本全国から集った有名無名のラッパーたち20組以上を収録。京都からは昨年のUMB京都代表でもある実力派フリー

スタイラー、RACY (K.C.Y.B) が参戦しているぞ。どのラップも刺激と気合いに満ち溢れていることよ！

また、DJ A-1が今年に入って、勝、醍福、悠然、GEB0の大阪屈指の4MCと結成したASTREETの動向も注視したい。この「鉄腕舞句」に2曲提供する他、今年中に予定している1stアルバムのプロモーション盤という位置付けで「MIXTAPE ATTACK」もリリース。チェックを怠るなかれ。

(中谷琢弥)

■「鉄腕舞句」/mixed by DJ A-1 ■発売中 ■sscd-j3 2100円
■MIXTAPE ATTACK/mixed by DJ A-1 ■発売中 ■sscd-as 2100円

2008まるごとベトナムフェア in 京都

EVENT

9.20~
(Sat)



Q.アメリカは「米」、イギリスは「英」 では、ベトナムを表す漢字とは？

A.「越」。ご存知でしたか？

2008年は日越国交樹立35周年記念の年。それを機に、両国の文化芸術交流の拡大を図るため、京都を中心とした「ベトナム力」が集結する。内容は盛りだくさんで、ベトナム民族音楽コンサートからはじまり、オーダーメイドでアオザイをつくれ、ベトナム雑貨や世界の民族楽器に触れられ、ベトナム語講座、果てはベトナムの人材採用支援セミナーまで。アタクシとしては、今秋

から本格的に始動するベトナム雑貨「リン・ホア」の出品に注目したいところ。

またフェアに先駆け、8月18日～9月5日(土日休館)には国際交流基金ベトナム日本文化交流センターにて、現地の自然や生活の営みを活写することに定評のある写真家の「勝恵美写真展inハノイ」も開催される。昨今、人気の「ベトナムめし」だけではなくベトナムの魅力満載。

(山田涼子)

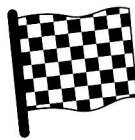
■「2008まるごとベトナムフェア in 京都」
■9.13 (Sat) プレイベントコンサート、9.20 (Sat) ~28 (Sun) ※月休
■京都市国際交流会館
■京都市左京区粟田口鳥居町2-1 075・752・3010
http://www.kcif.or.jp/
http://maruviet08.com/

先日、20年前に発売されたA E 86(頭文字Dの主役車)やユーノスロードスターに乗る機会に恵まれた。A B Sもエアバッグも、爆発的な加速があるわけでもない。今から思えば何にもないづくしだが、魅力的なクルマである。一言で言うなら「素うどん」ブレイクノックルと、美味しさに似ている。トッピングして自分の好みに仕上げる楽しさがある、ということだ。そんなクルマも少なくなってきた。京都の若者の創造力や五感をチューニングするのには、絶対のキャンパスだったのだが、我々の世代は、創造(想像)力を働かせ、コックピットと納得いくまでクルマを仕上げ、次に雰囲気づくりに力を注いだ。自らがセレクトした音楽を60分のカセットテープに編集、オートリバーズでA面からB面へと反転する頃に雰囲気は最高潮！「夜景が見えるあの辺り」でこの音楽が流れるように、というシナリオで、ソフトチェンジの上手さを自慢しながら京都から山中を越え、恋の琵琶湖ドライブが定番だった。こんな演出今

京都人の遺伝子「創造力」を忘れずに。

Kyoto Car-Moratorium

~京都人のクルマ知らず~



16th Lap



中島 崇 (なかしまたかし)

68年生。自称「クルマのソムリエ」。創業昭和38年。北区は紫野の自動車屋・株中島商会の二代目社長にして「安くていい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で2000万円をトクに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無小冊子「その手に手出せな」も好評。中島流「車道楽」を目指す京都人。



思うと恥ずかしくもあるが、ここで雲間をつくり、サリゲなくアピールして、女の子もそれに響いてくれた(今特集に登場している方々もきっと)。

京都の若者には、この「創造力」の遺伝子をなくさずにクルマを楽しく欲しいと思う。今後モトライバーを楽にする電子制御機能は増え続けるだろうが、BGMはMDでもiPodからでも鳴る。今の車でも創造力を活かした雰囲気づくりは可能なから。

© QUATRE ILLUSTRATION